

12
十五

丙午年七月一日

立案大正三年七月一日
決裁大正年月日

宗秩寮總裁



宮内事務官



大臣

次官

陸軍中將紫野義廣特旨
敘位ノ件

大正三年七月一日
臺帳記入ノ月一日
官報報告済

宮内省

(三十大)

次官

77

裏面白紙



陸軍中將柴野義廣特旨叙

位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十三年七月一日

内閣總理大臣子爵加藤高明



内

閣

陸軍第一〇三號

昭和二年七月一日

認可 昭和二年七月一日 施行 年月日

内閣總理大臣

了

内閣書記官

内閣書記官



陸軍中將從四位勳二等功四級柴野義廣
ハ別紙陸軍大臣奏請ノ通功績顯著ナ
ル者ニ付特旨叙位ノ件 上奏相成然ルニシ

陸軍中將從四位勳二等功四級柴野義廣

特旨ヲ以テ位一級被進

從四位勳二等功四級柴野義廣

叙正四位

昭和二年七月一日
今和成也

一ノ三號
昭和六年七月一日
決定 年月日 行 年月日

總理大臣

了

内閣書記官

内閣書記官



中將從四位勳二等功四級柴野義廣
紙陸軍大臣奏請、通功績顯著、
二付特旨敘位、件上奏相成也

陸軍中將從四位勳二等功四級柴野義廣

以テ位一級被進

從四位勳二等功四級柴野義廣

四位

昭和六年七月一日
全相成也

陸軍中將從四位勲一等功四級柴野義廣

右ハ旧加賀藩士ニシテ夙ニ勤王ノ大義ヲ唱ヘ明治元年六月奥羽征討ノ師興ルヤ加賀藩三番小隊ニ属シテ從軍シ幕兵ヲ越後口ニ撃滅シ爾後各地ニ勇戦シ毎回功ヲ樹テ會津落城後留リテ是カ守備ニ任シタル等維新鴻業ノ大成ニ貢獻セシ所訖カラス次テ明治四年十二月陸軍少尉トシテ出仕以來砲兵中隊長大隊長聯隊長野戰砲兵監等ニ歷任シ明治三十五年五月陸軍中將ニ任シ豫備役被仰付迄三十有餘年常ニ恪勤精勵軍務ヲ奉シ功績アリ殊ニ明治二十七八年戰役ニハ砲兵聯隊長トシテ出征シ各地ニ殊功ヲ奏シ又明治三十七八年戰役ニハ召サレテ留守第十師團長兼留守歩兵第八旅團長被 仰付軍務ニ鞅

陸軍

穿シ人馬物件ノ補充其ノ他多大ノ好果ヲ收メ明治三十九年二月召集解除明治四十二年四月退役被 仰付タル者ニシテ其ノ邦家ニ效セシ勲功寔ニ偉大ナリトス然ルニ今ヤ病患危篤ニ陥リ到底回復ノ見込無之ニ付此際維新ノ功ヲ録シ特別ノ思召ヲ以テ更ニ位一級ヲ進メ正四位ニ叙セラレ度

謹テ奏ス

大正十三年六月卅日

陸軍大臣宇垣一成



至急

位第 六五八號

柴野中将叙位、件進達

大正十三年六月卅日

陸軍大臣宇垣一成



内閣總理大臣子爵加藤高明殿

陸軍中将柴野義廣叙位、件

右進達

陸軍

裏面白紙

81

奉口年依三
本叙位宣下
至急進取計

中将叙位、件進達

十二月卅日

陸軍大臣宇垣一成



大臣子爵加藤高明殿

義廣叙位、件

陸軍

密奉

81

奉旨午後三時十五分死之
本叙位宮下迄喪ヲ執シ
至為痛取計ヲ乞フ



四三七一

一陸軍中将行軍後第一等功四回
右特旨ヲ以テ叙位相成候ニ付位記並辭令及回送候
條傳達方御取計有之度候也

大正七年七月一日

宗秩寮總裁候爵徳川頼倫

陸軍大臣

宮内省

裏面白紙

82